

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	ながのけんながのこうとうがっこう				②所在都道府県	長野県
26～30	①学校名	長野県長野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 840名	
普通科	280	280	40		600		
⑥研究開発構想名	観光を核にした国際都市NAGANOを担うグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開発の概要	普通科教育に探究活動を導入し、思考力・判断力・表現力の育成に資する学習形態を研究すると共に、グローバル・リーダーに求められる論理的思考力及び発信力の育成に有効な教育課程を研究開発する。学校設定教科「SGH」を設け、総合的な学習の時間を「長野のグローバル戦略を探る」等に編成し、成果を発信する国際的機会を設ける。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>様々な社会事象や地域活動を、グローバルな視点から正確に理解・分析する力や積極的に改善を押し進める力を涵養する。さらに、様々な人たちと良好なコミュニケーションを図り、世界を視野に入れて活躍できる総合力の高い人材を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知的好奇心が旺盛で活動的な生徒が多いため、学習と部活動の両立に積極的に励み、高い成果を上げている。その反面、自分たちで一つの課題を長期的に研究し、その成果をまとめ、発表するという総合的な力に弱さがある。 ○長野県の特徴的な地域活動や海外研修に参加し、長野県行政や企業と協働してグローバル戦略を推進することにより、グローバルに考え活動する力を育成できる。 ○英語によるプレゼンテーションやレポート作成を通して、様々な人とのコミュニケーション能力や発信力を鍛えることができる。 <p>(3) 成果の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界から参加する「善光寺グローバルサミット」を主催し成果を世界に発信する。 ○連携先や関係企業・団体及び長野県に対し、成果を提案する。（県では「学」が提案する産学官による長野県型グローバル戦略検討組織を立ち上げる予定。高校生が継続的に長野県のグローバル戦略に参加して行く。） ○公開型の課題研究発表会を開催し、多くの高校生や一般の方々とも成果を共有する。 ○研究論文や報告書を作成し、関係団体へ配布する。 ○英語によるホームページを通して、世界に発信する。 ○平成30年に長野県で開催される全国高校生総合文化祭に成果を還元する。 					
	⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>テーマ 長野県クロスエリア型グローバル観光戦略の研究</p> <p>長野県行政及び企業・関係団体と連携し、「観光」を中心に据え、観光×スポーツ（スキー・スケート）、観光×農業のようにクロス展開する分野横断（クロスエリア）的グローバル戦略について研究・検証し、有効な戦略を提案する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>ア 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1, 2年次は全員（4, 5人程度のグループ研究）、3年次は特に優れた研究成果をあげリーダー的な資質に富む40人を選抜して実施。 ○以下の分野から、観光とクロス展開する分野を一つ選び研究を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> スポーツ(スキー, スケート), 食品, 農林業, 生産財, 教育, 地域づくり 国際協力, 自然, 環境, 歴史・文化・芸術 </div> ○これらの分野において、県の施策として10年前から高校生の教育旅行を受入れ交流を図るなど、本県と結びつきが深い台湾への研修旅行を行い、提携している7つの高校や進出企業とワークショップ等を実施する。そこで課題研究の成果を発信するとともに、広い視野から発信内容を見つめ直し、一層の研究内容の深化を図る。 ○コミュニケーションとプレゼンテーションを重視した実践的な英語力の向上と、海外研修や国際会議（善光寺グローバルサミット）を通して世界の人々と広く交流し、 					

	<p>課題研究の内容を世界に発信するとともに、グローバルな視点から研究を総括する。</p> <p>○教員の指導体制 各クラス正副担任の2人を基本とし、関連教科の教員も適宜指導</p> <p>○外部との連携体制 長野県、市町村、企業、関係団体、大学・短大、アドバイザー</p> <p><1年次>各分野のグローバルな展開の現状とその考え方などについて、フィールドワークを通して学ぶ。また、コミュニケーションに必要な英語力の向上を図る。</p> <p>①「長野のグローバル戦略を探る」1単位（総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携先の企業や団体のフィールドワークを行い、課題を設定する。行政、大学、アドバイザーからも支援を受ける。 食品：風土Link（東御市）－県農政部－信大農学部－玉村豊男氏 スポーツ：北野建設スキー部－県体育協会－信大教育学部 <p>②科目「グローバル経済」1単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル戦略に係る専門家の講義から理論と実践を学ぶ。グローバル化の様々な影響をメリット・デメリットの両面から考えさせる。 企業のグローバル戦略－信大－JTB <p>③科目「英語プロジェクトⅠ」1単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語による課題探究力と発信力を養成し、「長野のグローバル戦略を探る」（総学）で行う課題研究の英語による情報収集や発信ができるようにする。あわせてその探究活動を通じて、情報の活用と表現に係る知識・技能・モラルの習得をする。 <p>④訪日台湾高校生とのワークショップ</p> <p>⑤米国リーダー研修 リーダーの資質が高い1、2年選抜者によるニューヨーク、ワシントン、ボストンでの約1週間の研修を実施し、現地高校や大学で研究成果を発信する。</p> <p>⑥善光寺グローバル・プレサミット 高校生・留学生に研究成果を発信する。</p> <p><2年次>1年次の課題研究を深め、その内容を台湾で発表し、英語で討論する。</p> <p>①「世界から見た長野のグローバル戦略」1単位（総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の研究を継続し、連携先と協議しながら課題を探究する。 <p>②台湾研修 10月頃、全員を対象に実施。提携している7校や長野県からの進出企業とのワークショップ等を通して課題研究の成果を発信し、討論する。</p> <p>③科目「英語プロジェクトⅡ」1単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語による課題研究を深め、台湾での研究発表とまとめを英語で行う。 <p><3年次 40人を選抜>これまでの課題研究を英語の論文と長野県や各分野への「提言」にまとめ、様々な機会に広く発信する。</p> <p>①「今後の長野のグローバル戦略」1単位（総合的な学習の時間）</p> <p>②善光寺グローバルサミット 世界の高校生と「NAGANOと世界の未来」について討論し、課題研究の最終成果を世界に向けて発信する。</p> <p>イ 検証評価</p> <p>①学校関係者、連携先企業・団体・大学などの委員からなる「SGH 評価委員会」により成果を検証、評価する。</p> <p>②課題研究論文や報告書を研究発表会やホームページに掲載し、発信する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定教科「SGH」を新設し、「現代社会」2単位の内1単位を再編成した「グローバル経済」と、「社会と情報」2単位を再編成した「英語プロジェクトⅠ、Ⅱ」を置く。 ・「総合的な学習の時間」を「長野のグローバル戦略を探る」、「世界から見た長野のグローバル戦略」及び「今後の長野のグローバル戦略」に編成する。
⑧-3上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>生徒会活動（環境対策委員会のアジアチルドレン支援事業、広報局の世界への発信）、海外留学（短期、長期）の奨励、出張授業「EUがあなただの学校にやってくる」（在日EU加盟国大使館と駐日EU代表部主催、事前事後学習とレポート評価）</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャップタームプラン（日本の大学へ進学を希望する海外高校生の短期受入等）
⑨その他特記事項	<p>高校生クイズ2013準優勝（日本TV）、24年度科学の甲子園（県代表）旭化成賞</p>

ふりがな	ながのけんながのこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	長野県長野高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	560人
	SGH対象生徒以外:		人	20人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 1・2年生の全生徒が取り組む。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGHの活動により留学への意識が高まると考える。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		%	60%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHの取組により多くの生徒がグローバルに活躍することが見込まれる。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		人	10人	人	人	人	人
目標設定の考え方: エコノミクス甲子園、科学の甲子園、小論文コンテスト等の入賞者数。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		60%	60%	%	%	%	%
目標設定の考え方: TOEFLを用いて検証していく。								
(その他本構想における取組の達成目標) 世界や社会の動きに関心をもち、学ぶことに意義を感じている生徒の割合								
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGHを通して育てたい資質を検証する。2年終了時(26年度は1年終了時)に意識調査を行う。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		40%	40%	%	%	%	%
目標設定の考え方:グローバル30に指定された大学への進学数を勘案した。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		1人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方:2桁程度の海外大学への進学を見込みたい。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方:SGHの課題研究が大学の専攻分野の選択に大きく影響すると思った。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	80人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方:グローバルな視点を持ち、海外への留学や海外研修を志す卒業生が増えると思った。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	80人	人	人	人	人	人	320人
	目標設定の考え方:台湾研修及び米国リーダー研修の参加人数(延べ人数)							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	600人
	目標設定の考え方:SGH対象全生徒							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校	校	校	校	校	校	20校
	目標設定の考え方:台湾研修及び米国リーダー研修における連携を中心に、善光寺グローバルサミット等も活用して行く。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	50人
	目標設定の考え方:7人×回数							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	40人
	目標設定の考え方:2人×回数							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	284人	人	人	人	人	人	600人
	目標設定の考え方:小論文コンテスト等への参加。更に課題研究の成果を発信するために各種大会に積極的に参加して行く。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	人	0人	人	人	人	人	人	21人
	目標設定の考え方:積極的に受け入れて行きたい。ギャップタームプランによる受入も進めたい。							
h	先進校としての研究発表回数							
	回	0回	回	回	回	回	回	5回
	目標設定の考え方:課題研究の成果を、校内に留まらず、広く世界に発信する。SGHの取組についても発表して行く。							
i	外国語によるホームページの整備状況							
	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方:順次できるところから更新してゆく。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)海外の高校生と課題研究の内容等について英語でディスカッションできた生徒数							
		0人	人	人	人	人	人	340人
	目標設定の考え方:1学年の1/2、2学年の3/5、3学年(40人)の3/4							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	923	889	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							